令和５年度未来へつながる学校づくり推進事業のまとめ

自ら学び主体的に判断し行動できる生徒の育成
～確かな学力・豊かな人間性を育む教育活動～

小田原市立千代中学校

１　研究の目的

本校は学校教育目標を「自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒を育てる」とし、これからの時代をたくましく生き抜き、未来を拓く力を育成することをめざし、教育活動に取り組んでいる。

令和５年度の学校経営計画（グランドデザイン）の中から、中心課題として３点を挙げ、その具現化をめざし研究を深めた。

２　研究の内容

（１）　社会力の育成と校内研究の推進

・自己の周りすべての人・物・出来事と関わる力、コミュニケーション能力の育成をめざすこと
・インクルージョンの視点による生徒一人ひとりの理解、能力や可能性の伸長を意識すること
・校内研究組織による「学びあいの学習」を大切にした授業づくりと評価の研究の充実を図ること

（２）　自己実現と社会貢献を支えるための地域一体教育、「地域とともにある学校づくり」の推進

・生徒一人ひとりが自己有用感を感じられるような場面設定（体験）と価値づけ
・地域の一部としての千代中学校ならではの教育活動の創造と、まちづくり委員会等との連携
・郷土小田原や地域のことを意識しながら SDGs を理解し、深め、社会への提案や生き方を考える「総合的な学習の時間」等の充実
・スクールボランティアが関わる活動等、生徒・職員・保護者・地域の協働活動の設定
・学校評価（生徒評価、教職員評価、学校関係者評価）の充実（活用）

（３）　健全な精神、健全な身体、豊かな心を育むための校内環境整備の推進

・生徒が安心して温かい気持ちで生活が送れるような校地内の環境整備
・折り紙、園芸、図書、読み聞かせの各スクールボランティアによる活動支援
・ＩＣＴを活用した授業の充実に向けたデジタル環境の整備

３　事業の成果

（１）について

昨年度まで３年計画で進めた研究内容を、より実効的なものにしていくための方策を探りながら活動した。具体的には、生徒自身が見通しを持って学習する環境を整えることをめざし、全教科で「千代中学びプラン」の内容の改善を重ねたことや、各教科、各単元で「振り返り」を大切にすることに取り組んだ。単元の学習を終えた後に、「何ができるようになっているか」という姿を具体的に想定し、その力が実際についているかどうかを見取る（評価する）ための方策をプランニングすることの大切さを、教師側でも再認識することができた。学校評議員会の中で説明をした際にも「これからの時代を生きる生徒たちにとって、身に付けてほしい力を考えたとき、千代中の学び方や評

価方法はよいのではないか」とのお声をいただくことができた。また、昨年度の学校評価生徒アンケートの中では、研究を重ねてきた単元計画と評価について、「学習しやすかった」「目標が明確になる」などと肯定的に回答した生徒が７２％だったことも、研究を進めてきたことの成果として捉えている。

（２）について

地域との連携・協働については、生徒が周りの人と関わる力（コミュニケーション能力）や生涯にわたり幸せに過ごすための「社会力」を身に付けるために大変有効であると捉え、「地域とともにある学校づくり」を強く意識して、様々な教育活動を進めることができた。

本年度も、まちづくり委員会等との連携・協力により、生徒・教職員・保護者・地域の協働活動を意図的に設定した。特に地域に出て、校外で中学生が活動することが効果的であろうと考えた。自分の住む地域の美化清掃活動への参加、地域の皆さんと一緒に活動できる防災訓練への参加、地域で展開される農業について実体験から学べる機会の設定、ほかにも貴重な「体験」の場を、地域の協力をいただきながらたくさん設けることができたと感じている。

学校評議員会でも、地域と協働しながらの教育活動について、動画や画像を観ていただきながら「生徒が皆いい顔をしながら学んでいる」「学校のＨＰは、生徒の地域での活動の様子がよくわかる」といった声をいただくことができた。

生徒の参加体制については、校内で「ボランティア募集」として、個人にアプローチするとともに、各部活動単位での声掛けを行って整えた。生徒の自主性を育むためには、その生徒にとっての成功体験や、やってよかったなと思う体験が必要であると考えている。最初の参加は自分の強い意志ではなくても、そのような機会に参加することで地域のことを知り、さらに皆で協働する活動の良さを実感し、将来的に幸せに過ごすための「社会力」を身に付けてほしいと願っている。

（３）について

スクールボランティアの皆さんの活動の様子を、生徒が目の当たりにしていることは、生徒にとって好影響であると感じている。年間を通じて、折り紙、園芸、図書、読み聞かせ、の各スクールボランティアのみなさんと生徒が直接関わっての協働活動は少ないが、地域の大人の皆さんが校内の環境整備や、学びのお手伝い等を行う様子を見て、感じることで、生徒は校内でも地域の人たちに見守られているという気持ちになっている。校内では、環境美化活動に限らず、「みんなのために」と考えて行動する生徒（千代中ヒーロー）がたくさん見られるようになってきた。

今後、本校のめざす学校像「皆が居心地の良い学校」にさらに近づくためにも、生徒も教師もボランティアさんも皆が気持ちよくなれる活動を継続していきたい。

以上のように本年も研究を進めてきたが、年間を通じて、学校ＨＰを中心に学校の活動の様子を積極的に公開することを心掛けてきた。今後も、慎重さを持ちながら情報を公開し、できるだけ学校の様子を知っていただけるように努めたい。そして、研究の中で効果的と感じている部分を継続し、生徒の実態を踏まえたうえでカリキュラムマネジメントにも努めていきたいと考える。